

令和5年度 学力等調査の結果について

令和5年度に実施された全国学力・学習状況調査（文部科学省）について、杉並区立小・中学校の結果を報告する。

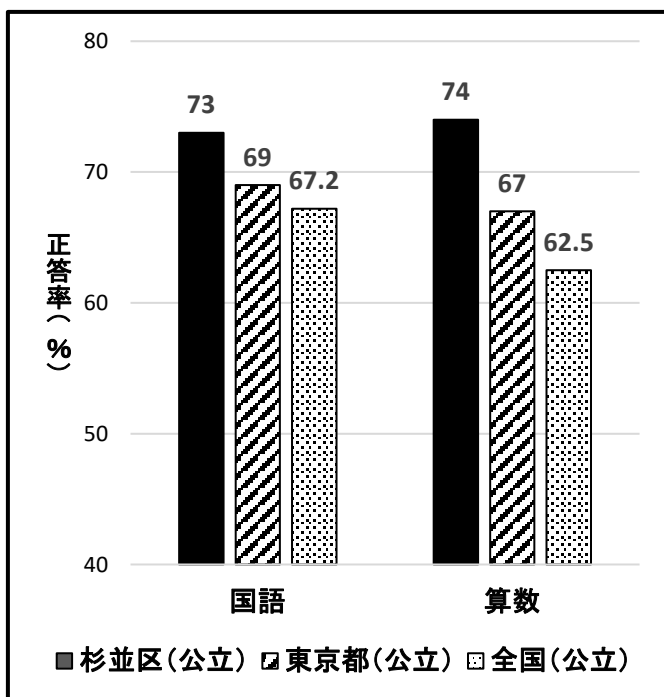
1 令和5年度 全国学力・学習状況調査（文部科学省）

目的	児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における教育指導の充実や学習指導の改善等に役立てる。
対象	・公立、国立、私立小学校第6学年 ・公立、国立、私立中学校第3学年
調査内容	①教科に関する調査 ・小学校：国語、算数 ・中学校：国語、数学、英語 ②質問紙調査
調査日	令和5年4月18日（火）

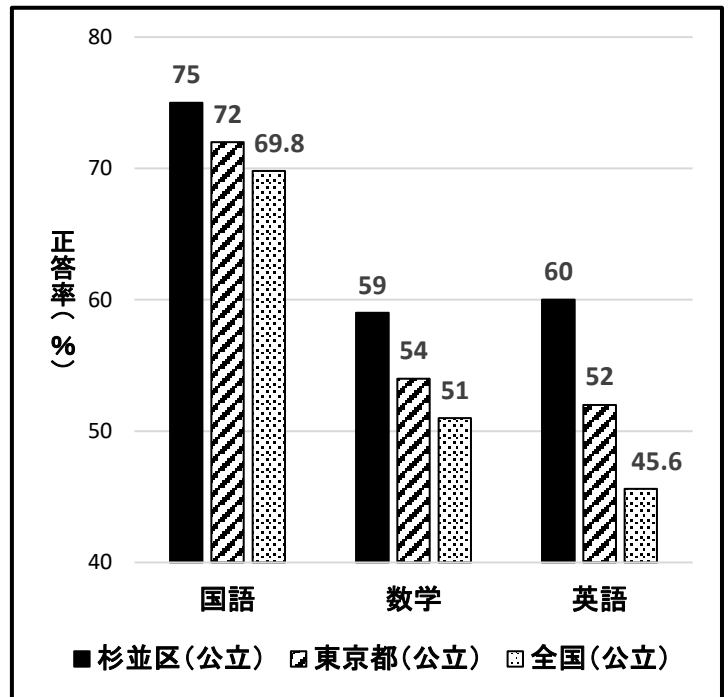
2 調査結果の概要

(1) 全国（公立）、東京都（公立）との比較

平均正答率（％）について全国（公立）、東京都（公立）と比較すると、杉並区（公立）は、全教科で全国（公立）、東京都（公立）を上回っている。



小学校第6学年



中学校第3学年

3 成果

- ・小学校及び中学校のほぼ全ての問題について、杉並区は東京都や全国よりも高い正答率を示している。
- ・小学校において、国語では目的に応じて文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つける問題の正答率が全国と比べ 10%以上上回っている。算数では、複数の記述式の問題について全国と比べ 15%以上高い正答率を示している。
- ・中学校においては、国語の読むこと及び書くことにかかわる問題の正答率が全国と比べ 10%近く上回っている。中学校数学及び英語では、全領域のほぼ全ての問題において全国と比べ高い正答率を示している。

4 課題及び今後の取組

(1) 課題

- ・小学校及び中学校において、全ての教科について高い正答率を示しているものの、記述式の問題では、10%を超える高い無解答率を示した問題があり、問題内容の理解と基礎・基本の定着に課題が見られた。
- ・今年度のみ実施の中学校英語「話すこと」調査では、正答率では杉並区が全国を 10.6%上回ったものの、複雑な場面設定の中で英語で聞かれたことを基に、考えと理由を述べる問題の正答率が低く、場面設定を的確に把握し、英語で自分の考えを正確に述べる力を高めていくことが課題である。

(2) 今後の取組

- ・基礎的・基本的な事項の確実な定着を図るため、日々の授業の中でデジタルドリル等を活用し、知識・技能等の習熟を図るとともに、学び残しが見られたり、特定の内容でつまずきがあったりする児童・生徒に対して放課後等に個に応じた学習の支援を行う。
- ・タブレット端末を対話的な学びや思考を深める学びに効果的に活用することにより、学習指導要領の趣旨に基づく「主体的・対話的で深い学び」への授業の転換を進め、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成を図る。
- ・教育委員会として、学力調査結果等のデータをもとに、訪問型要請研修を充実させ、校内研究等の機会を通じて、教員の授業力向上を支援する。